

400MHz動作でPentium互換の
ワンチップ・プロセッサQuark搭載!

Lチカから
Webサーバまでサッ!

純正Arduinoとして使えるインテル純正Linuxボード Galileo 試用レポート

桑野 雅彦

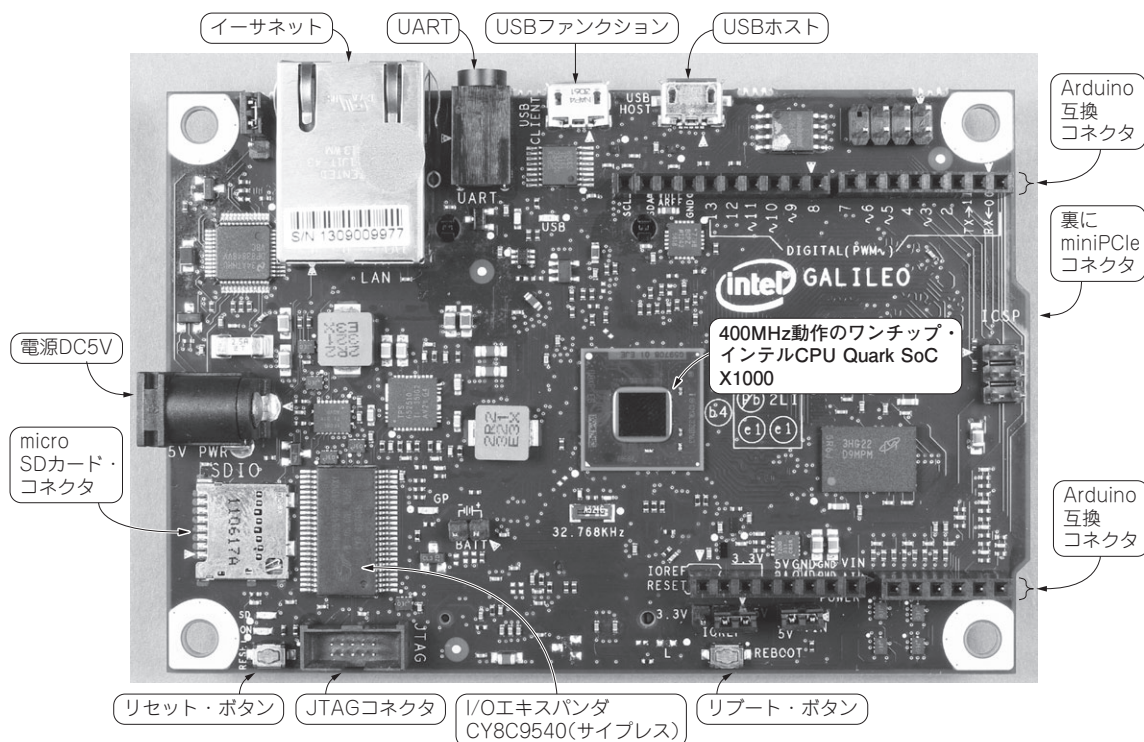


写真1 インテルCPUを搭載する低価格LinuxボードGalileo誕生!

こんなボード

● 400MHz動作のワンチップ・インテルCPU 搭載Linuxボード・コンピュータ

写真1のGalileo(ガリレオ)は、インテルが開発した400MHz動作のPentium互換の32ビットCPUをコアとしたSoC(System on a Chip)を搭載するボード・コンピュータです。イーサネットやUSB、I²C/UART/SPI、デジタル入出力、A-Dコンバータ、SDカード・インターフェースなどを備えています。

Galileoボードの回路ブロックを図1に示します。搭

載プロセッサはQuark SoC X1000 Application Processorというものです。Quark(クォーク)という名称は素粒子のクォークからとったもので、ネットブックPCなどに使われているAtom(アトム:原子)よりさらに低消費電力化して、組み込み用途などへの応用も狙ったプロセッサです。本稿執筆時点(2013年11月)はまだ国内正式発売前ということもあって、正式な価格は発表されていませんが、7,000円前後となる見込みとのことです。

Pentium互換と聞くと、どうしてもWindowsが走るPCを想像してしまいたくなりますが、Galileoは、PC互換をバツサリと捨て去り、Linuxをベースにし